

## 活気ある持続可能な社会の構築に向けた究極のカスタムフィットものづくり社会の在り方

岩手大学 地域連携推進センター 今井 潤

電話 019-621-6491 e-mail: junimai@iwate-u.ac.jp

### 背景と目的

日本の製造業の経済的役割は、依然として大きいですが、従来の大量生産型製造業には多くを期待できない。なぜなら、労働集約型の工場はコスト的に途上国でなければ成り立たず、地域経済への貢献は従来のように期待できない。このため地域における製造業の在り様として、大量生産型から多品種少量／一品生産の方向へシフトし、クラウドサービスと連携した技術提供環境を整える必要がある。

そこで、ものづくりのイノベーションコンセプトとして「カスタムフィットスタイルのものづくり社会」を掲げ、岩手において取り組むべき可能性について、イノベーション対話促進のための対話ツールを活用して検証する。その対話の中心に大学生を参加させることにより、対話技術の実践的な習得を目指す。

### 内容

ワークショップへの参加者は、テーブルのファシリテーターとして首都圏の企業経営者(10%)に加え、地元企業経営者(10%)、自治体職員(10%)など、大学生(50%)、大学職員(10%)などで構成した。

様々な技術革新などに支えられてきた今までの社会を振り返り、未来がどのような社会になって欲しいかを想像し、未来年表を作成することとした。年表を作成しつつ、カスタムフィットがもたらす付加価値について、ワークショップ 4 回を通して、議論を進めることとした。この過程を通し、**カスタムフィットに求められる付加価値は、幸福感**であると気づきを得られた。なお、ハッカソンの考え方を取り入れ、1 回のワークショップの時間を 1 日半 (10 時間) として、疲弊してフロー状態を強制的に作り出すことを目指した。

予測されている未来像と、将来自分がなりたいたい、または実現したい未来像をぶつけることにより、将来どのようなものづくり (製品、サービスなど) が求められるか、ブレインストーミング、2X2、強制連想マトリクスなどにより、アイデアを出し、ロールプレイングや、実際にものを作成するプロトタイプを行い、より実現可能性が高いものとした。

更に大 4 回ワークショップでは、地元金融系シンクタンクによりアイデアの選別及び、そのビジネスをどの業種として実施するか、企業審査の観点から、必要な要検討を考察し、実現可能性が高く、ありそうで無かったビジネスモデルを選定し、クラウドファンディングにあげる形でまとめ、紹介ビデオの作成を行った。

### 結論

学生をワークショップの中心に入れることで、特にブレインストーミングでは、多くのアイデアを出すことが出来た。彼らはすぐに対話技法を習得し、普段の会話がブレインストーミングの様に次々とアイデアが出てくるようになった。課題も実践的であったため、自ら積極的に議論に参加する姿勢が見られ、今後この様な取り組みが非常に重要かつ有効であることが確認できた。更に首都圏のベンチャー企業の経営者が参加することで、出てくるアイデアの質が格段に向上することが分かった。これは彼らがいつも新しく面白いものを探している、その嗅覚に由来するものだと思われる。

最後に得られたビジネスモデルとしては、大自然を映画館にして、例えば洞窟の中でホラー映画を見たりするような、自然の中の雰囲気を楽しんだ、移動映画上映を支援するビジネスや、家族の一員ではあるけれど、短命なペットとの生活を、様々なイベントなどで盛り上げて、思い出を記録する、ペットの冠婚葬祭ビジネスが提案された。まだまだ未熟なものであるが、ありそうで無かったビジネスを考えられたと思われる。またワークショップの過程で作成した未来年表も、未来を考えるときには非常に有用なツールとなり得るため、これも成果の一つとして考えられると思う。



# 活気ある持続可能な社会の構築に向けた

# 究極のカスタムフィットものづくり社会の在り方

## 今年度の取り組み

- ① イノベーションコンセプトの抽出  
カスタムフィットがもたらす付加価値について抽出
- ② デザイン思考型の対話技術の習得と、アイデアの創出  
**40 数個**のビジネスアイデアの創出
- ③ アイデアの商品化とビジネスモデルとしての評価  
事業可能性の評価とあわせ、プロトタイピング。**クラウドファンディング**を想定して**ビジネスモデル立案**

## 幸福感

## ワークショップの流れ

**第 1 回** ビジネスアイデアを考える元になる、『未来ビジョン』を語り、見据える。

- BS 1900 - 2030 年
- BS 豊かにしてきたものの年表作り
- 対話 2x2 の軸を変えて、各時代の特徴を抽出
- BS 高くて欲しいものなどの強制連想から得られたアイデアを年表に戻す。
- 2X2
- 2X2 便利さの飽和と幸福感の枯渇が明確化
- 2X2
- 強制 →『幸福感を生み出すカスタムフィットものづくり』



**第 2 回** 「カスタムフィットものづくり」で自分や周囲の人の未来を「幸福感で満たす」ための視点を見出す。

- BS 2060 年までの未来年表作成
- BS 自分がこれから頼みたいこと
- 対話 環境、資源、人口、雇用、社会システムの未来
- 年表 未来にあるべき幸福感とは？
- 強制 年表に付箋を貼り、そこから得られる気づきは？
- 強制 幸福を生むカスタムフィットものづくりとは？
- 強制 ロールプレイング

**第 3 回** やりたいことと、これから起きることを考え、自分と社会の未来を想像する。

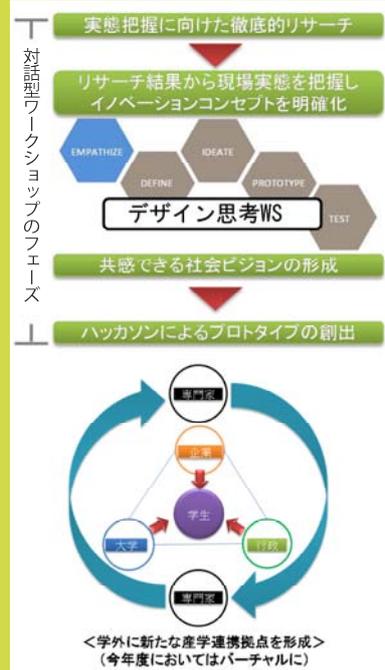
- 年表 仕事・プライベートに関する未来年表づくり
- 対話 インサイト発掘 どんな幸福感が得られるか？
- 2X2 社会で起きる出来事から幸福感を考える
- 対話 高品質な幸福感が得られるか？
- 強制 得られたインサイトを元に、これから手に入れたいもの × 社会の出来事で強制連想 → アイデア抽出
- 強制 得られたビジネスアイデアの顧客は誰か？
- BS 事業可能性の評価
- CVCA
- 強制 ロールプレイング

**第 4 回** アイデアの検証

岩手経済研究所から、アイデア検証の視点と考え方についてインプット

- 対話 4 テーマの振り返り（動画視聴）
- 対話 4 つのアイデアが持つ幸福感とは？
- 対話 岩手でカスタムでフィットする要素
- 対話 44 アイデアからの選択
- BS 顧客像は？
- 強制 岩手の資源を活用してカスタムでフィットな魅力を高められないか？
- 強制 プレゼン

連絡先 岩手大学 地域連携推進機構 准教授 今井 潤  
電話 019-621-6491 e-mail:junimai@iwate-u.ac.jp



イノベーション対話手法導入による新しい産学官連携体制

## ワークショップ実施に関する工夫

### 練習

合計 12 回以上の練習ワークショップを実施しました。  
練習をすることにより、設問の抽象度、聞き方、ワークショップ進行のコツ、失敗の原因について、学習しました。

### 参加者

参加者に、経営者を入れることにより、格段にワークショップの質が向上しました。学生の荒唐無稽な発想も前向きにとらえつつ良い方向に、集約することができました。練習で BS の技術を習得した学生も、非常に、力になりました。

### 進行

1 回のワークショップの時間を 1 日半（10 時間）にしました。ハッカソンを意識して、必ず毎回、短時間にある程度、形あるものを作り上げることを目的の一つにしました。

### まとめと振り返り

各ワークショップを通じて創出された 40 以上のアイデアについて、地元シンクタンクにアドバイスをもらうとともに、対応する事業分野に落とし込み、実行可能性について、検討するとともに、クラウドファンディングを活用した事業の可能性を検討した。

### 支援ツール

未来年表は、将来のことを考える上で、非常に取り組みやすいものさしになる。明るい未来の発想を広げることが出来るようになる。  
また、BS で連想を広げようとしても、枯渇してしまう場合がよくある。そういうときに、刺激を与える方法が必要である。未来年表アプリおよび BS 支援強制連想支援アプリの開発を進めている。

### 場づくり

会議室ではなく、ゆったりとした雰囲気の中で、楽しく対話ができる空間。付箋紙を貼る十分な空間を確保。



## 成果の一例

- 未来年表
- 事業計画 大自然スクリーン
- 思い出ファミリー

などについては、動画でご紹介します。

